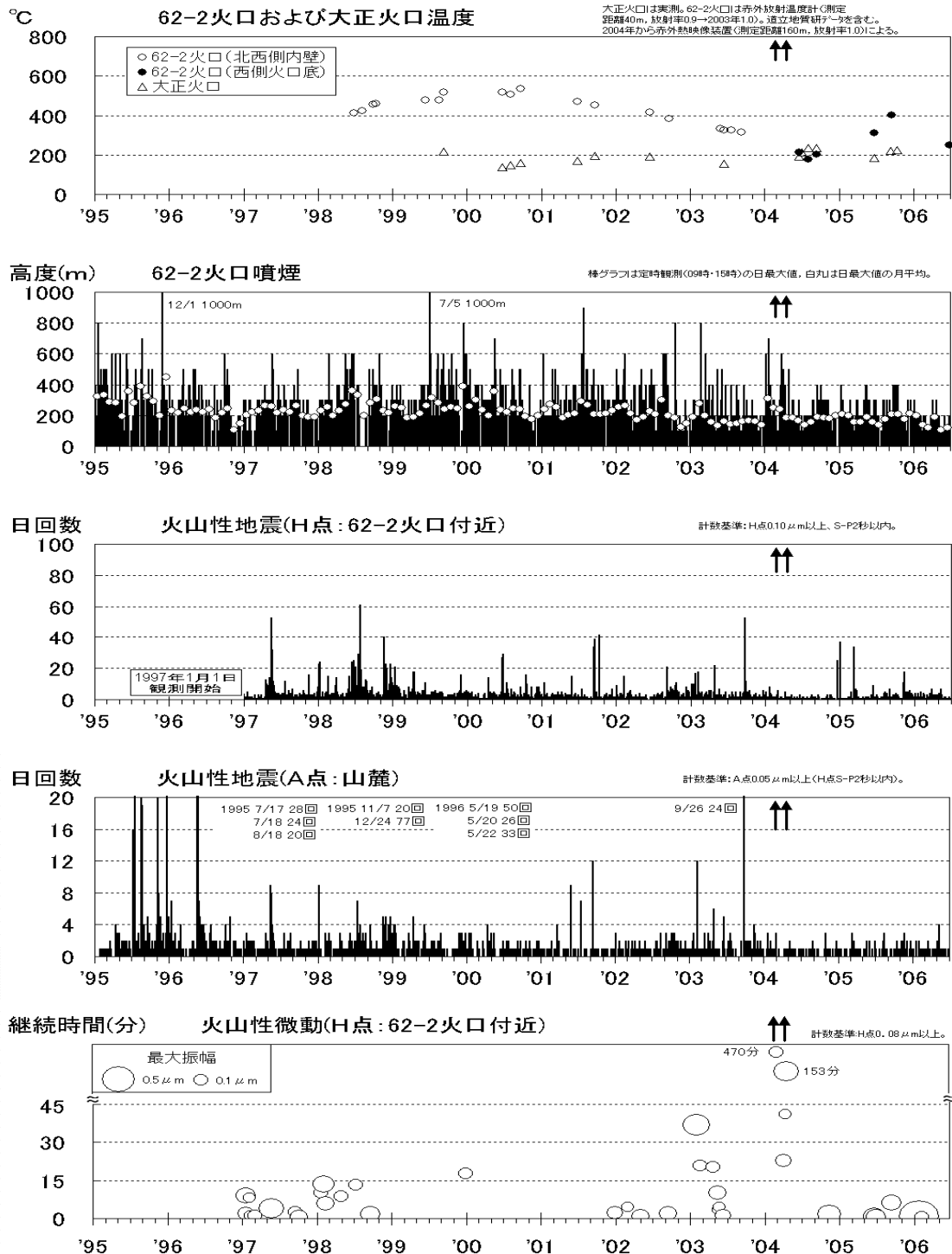


十勝岳

1 概況

62-2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。



最近の火山活動経過図（1995 年 1 月 1 日～2006 年 6 月 30 日） ↑印はごく小規模な噴火

十勝岳の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

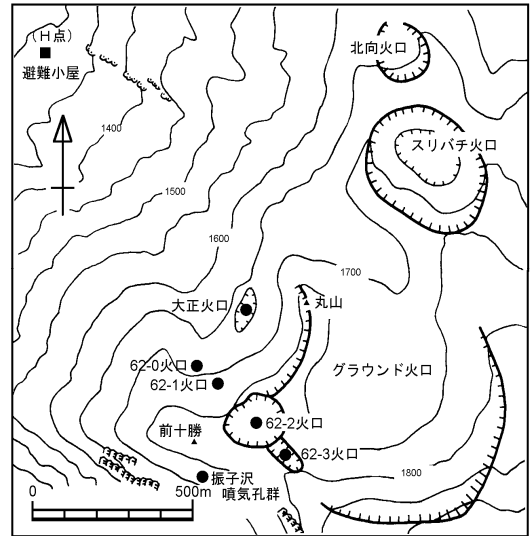
2 噴煙および火口の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。噴煙は白色で高さは火口縁上おおむね 100m で経過しました。

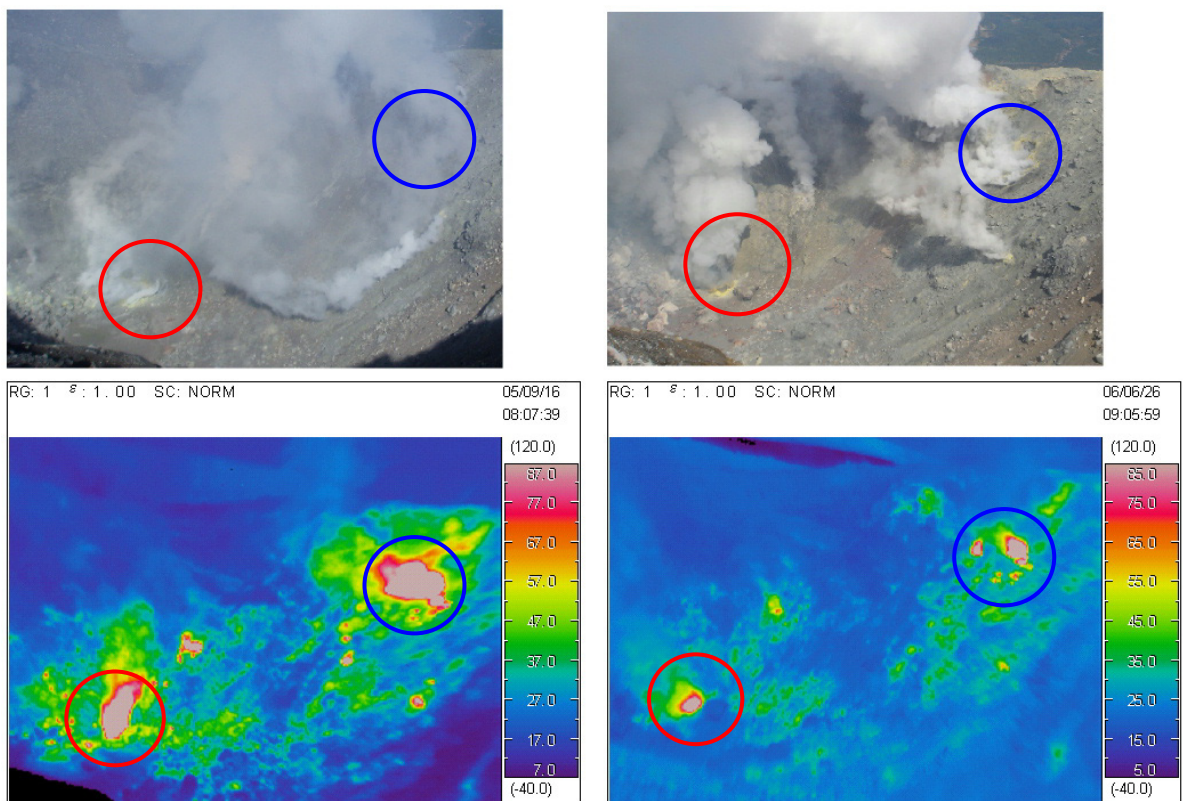
6 月 25～28 日に調査観測を実施しました。62-2 火口では引き続き活発な噴煙活動と高温の状況が続いていました。その他の火口も、前回（2005 年 9 月）の状況と比べて大きな変化はありませんでした。

【62-2 火口】

活発な噴煙活動が続いており、火口縁では強い二酸化硫黄（ SO_2 ）臭が認められました。西側火口底 および北側内壁の噴気孔からは、透明な火山ガスを勢いよく噴出する活発な噴気活動が継続していました。赤外熱映像装置*により測定した 62-2 火口の温度は約 250℃で、前回（2005 年 9 月：約 400℃）に比べ低下が認められましたが、依然として高温の状況が続いていました。



十勝岳火口周辺図



赤外熱映像装置による 62 - 2 火口の表面温度分布（左：2005 年 9 月 16 日 右：2006 年 6 月 26 日）

○：西側火口底の活発な噴気孔 ○：北側内壁の活発な噴気孔

西側火口底および北側内壁の噴気孔からは、透明な噴気が非常に勢いよく噴出している。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

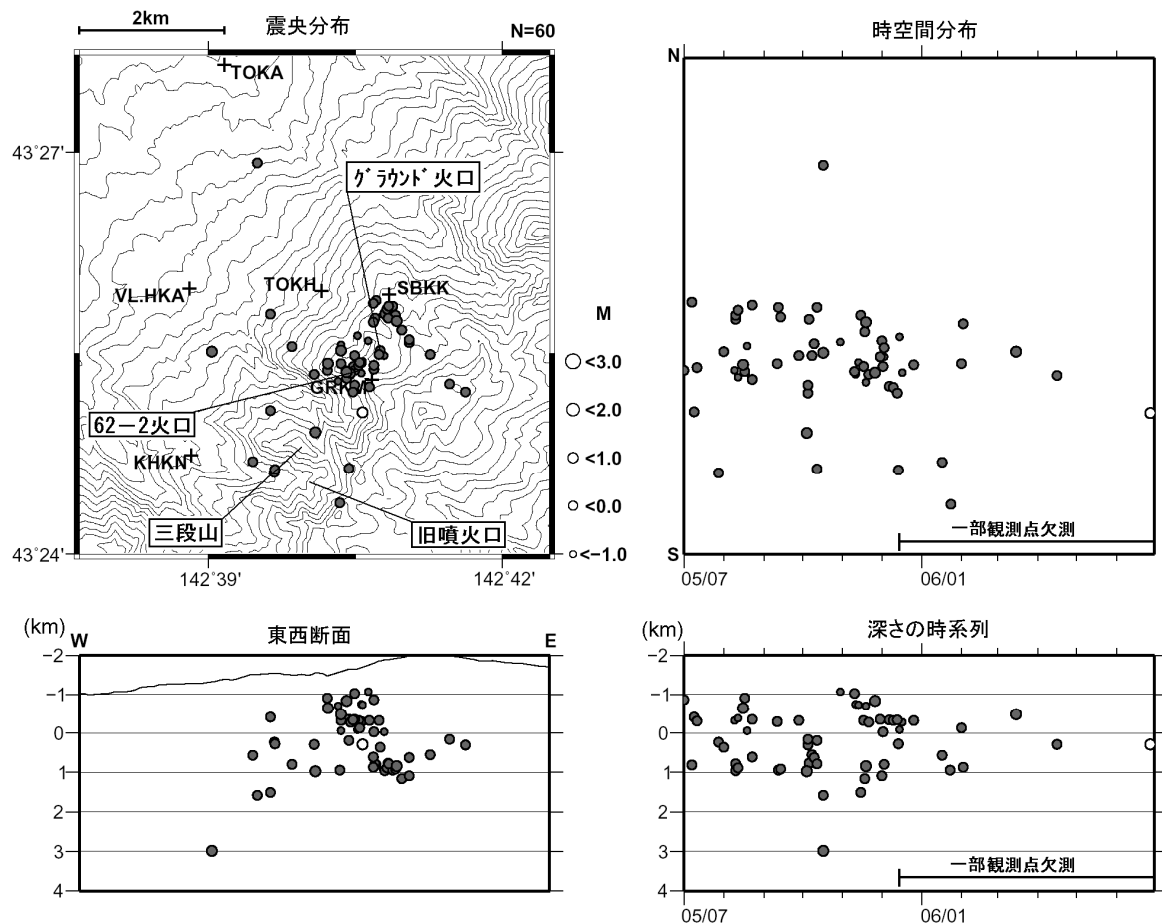
3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 1 日あたり 0～2 回と少ない状態で経過しました。震源はこれまでと同様にグラウンド火口周辺と三段山～旧噴火口周辺の浅い所（山頂から深さ約 1km～3km 程度）に分布していると推定されます。

火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数（H 点：火口付近の観測点 A 点：山麓の観測点）

2005～2006 年	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
地震回数 H 点	17	41	29	25	78	69	32	44	48	37	32	16
地震回数 A 点	4	13	2	7	14	9	6	8	10	4	12	3
微動回数 H 点	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0



十勝岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点、気象庁と北海道のデータを使用）

※2005 年 12 月 19 日以降、一部観測点欠測のため震源決定能力が低下しています。

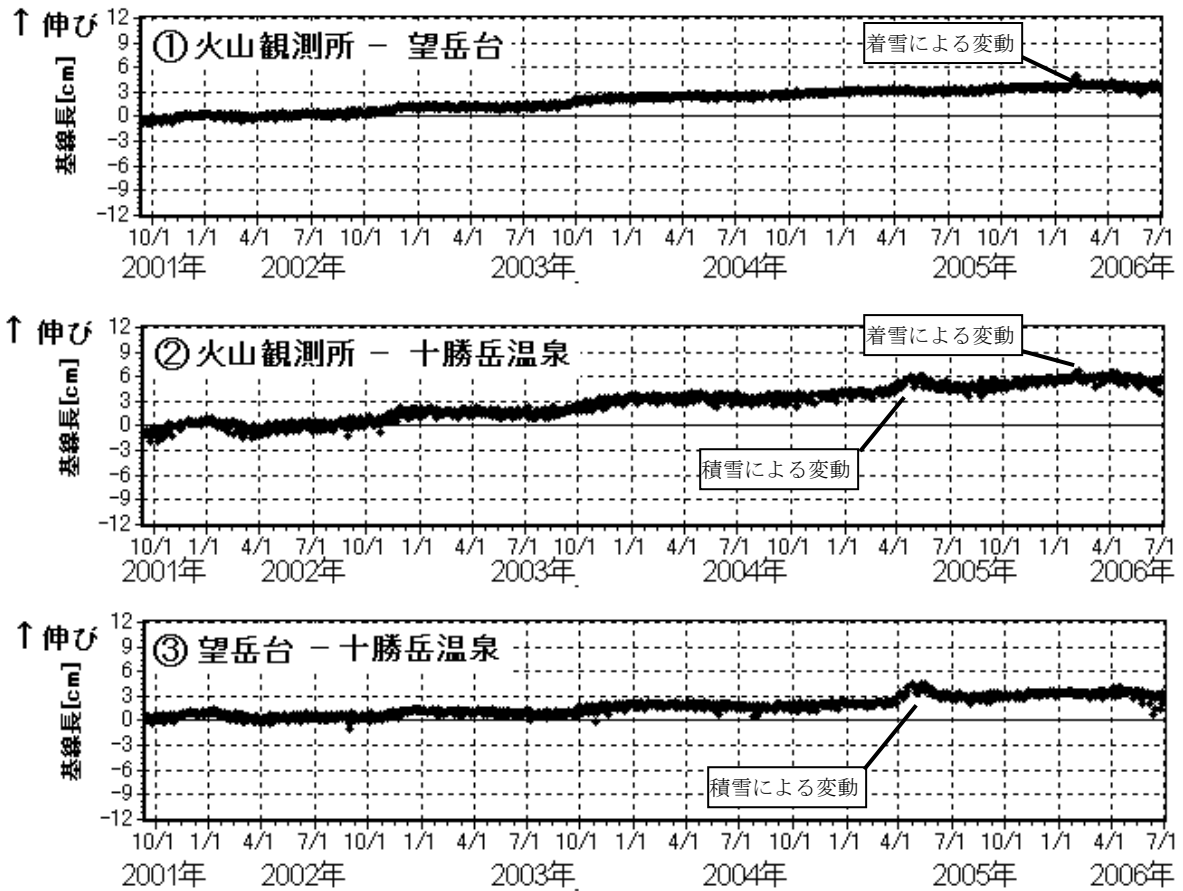
○印は今期間(2006 年 6 月)に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間(2005 年 6 月～2006 年 5 月)に求まった震源を示しています。

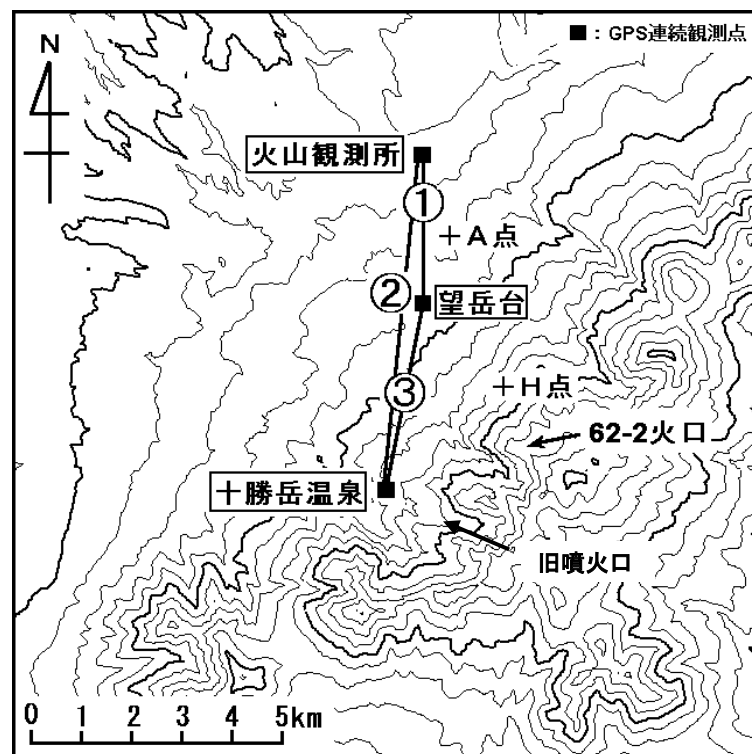
震源はグラウンド火口周辺と三段山～旧噴火口周辺の浅い所（山頂から深さ約 1km～3km 程度）に集中しています。今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。



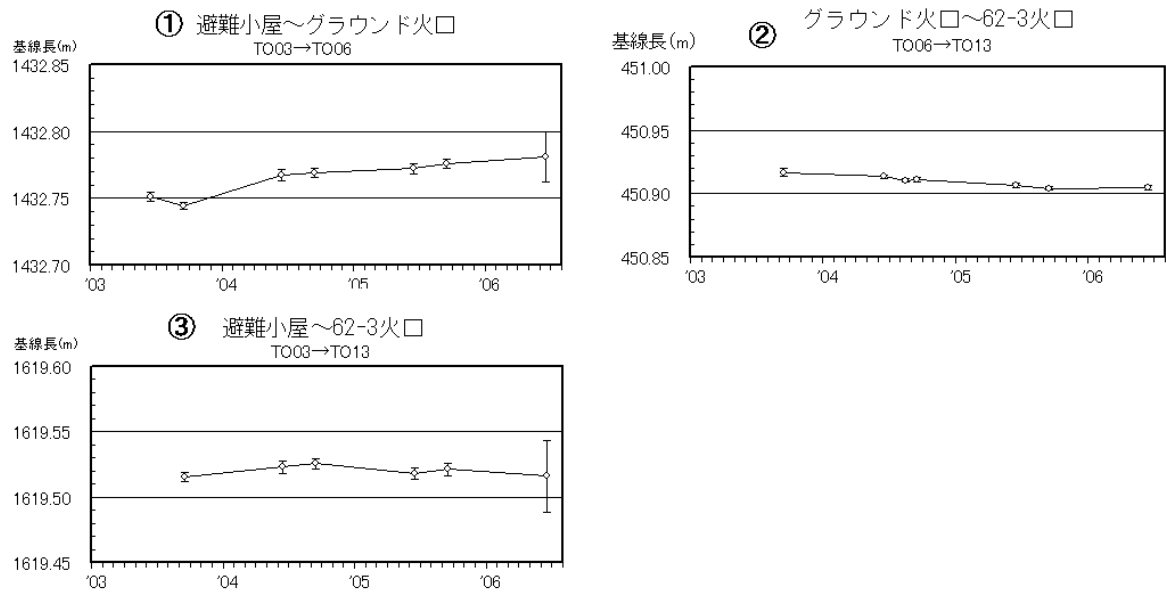
基線長変化（2001 年 9 月 13 日～2006 年 6 月 30 日）



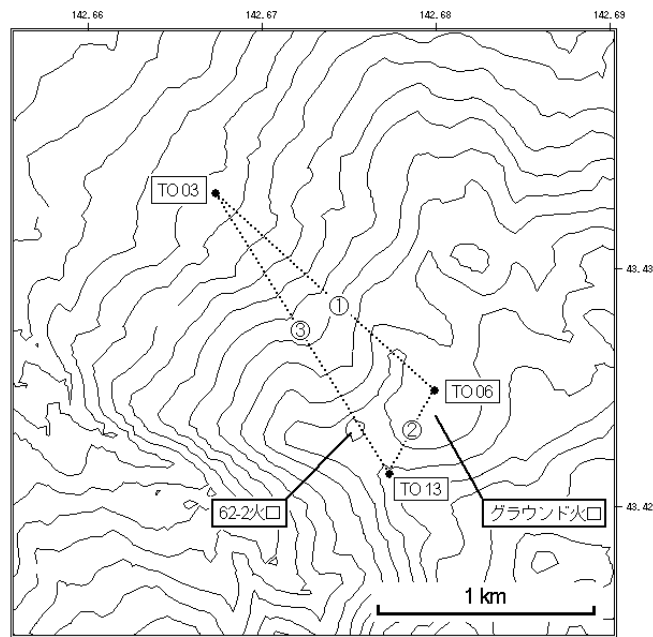
GPS 観測点配置図

【GPS 繰り返し観測】

25～27 日にかけて GPS 繰り返し観測を実施しました。62-2 火口周辺の基線で火山活動に関連する変動は観測されませんでした。



62-2 火口周辺の基線長変化



山頂GPS繰り返し観測位置図